

第 1 号議案

第 21 期事業報告

1. 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

- 別紙 1 居宅等事業「フリースペース・うえるびー」
- 別紙 2 生活介護事業「おれんじ初倉 かりん」
- 別紙 3 就労継続支援 B 型事業「りんご」
- 別紙 4 共同生活援助事業「グループホーム陽だまり」

2. 児童福祉法に基づく放課後等デイサービス事業

- 別紙 5-1 放課後等デイサービス 実施概要
- 別紙 5-2 おれんじ柳町
- 別紙 5-3 おれんじ坂口
- 別紙 5-4 おれんじはつくら・いちご

3. ノーマライゼーション社会の実現事業

- 別紙 6 ノーマライゼーション社会の実現事業「ひだまりカフェ」

4. 障がいのある人への移動サービス事業

- 別紙 7 地域生活支援事業「移動支援事業」

5. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

- 別紙 8 うえるびー研修・外部研修
- 別紙 9 委員会・理事会・総会

居宅等事業「フリースペース・うえるびー」

目的・実施概要・成果

地域社会で、障がい者が安心して日常生活を送るために以下の支援を実施する。

年間稼働日数 365 日 延べ利用者数 1,458 名

〈居宅介護事業〉

（目的）利用者が居宅にて自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、利用者の置かれている環境に応じて、入浴、排泄及び食事等の身体介護、調理、買い物、洗濯及び掃除などの家事援助並びに通院時における通院介助など、生活全般にわたる介護サービスを行う。

（成果）身体介護 延べ 416 名、家事援助 延べ 221 名、通院介助 延べ 2 名の利用となっている。

食事や入浴、排泄の支援をする身体介護については、「安全に在宅生活を送りたい」、「家族による介護負担を軽減したい」という気持ちに添った支援ができています。

一人暮らしの利用者の買い物をお手伝いすることにより、生活を安定させることができた。

調理や掃除等を行う家事援助では、利用者と一緒に行うことで利用者の自立のお手伝いができた。

〈重度訪問介護事業〉

（目的）重度の肢体不自由があり常に介護を必要とする利用者に対して、居宅での入浴・排泄・食事などの介護や、調理・洗濯・掃除等の家事など生活全般にわたる介護サービスを行う。

（成果）実利用者数 2 名、内 1 名は牧之原市在住の常時人工呼吸器を使用し 24 時間介護が必要な利用者である。ヘルパー 10 名でシフトを組み毎日支援に入っている。週 2 回の訪問看護、週 1 回の訪問入浴については、他事業所と協力して実施しており、24 時間 365 日の利用者の在宅生活を支えることができています。

去る 9 月 5 日の台風 15 号接近に伴う竜巻による直接の被害はなかったが、利用者宅が停電になり、準備してあった発電機を動かして人工呼吸器を作動することができた。しかし、エアコンや冷蔵庫等の暑さ対策には対応できず、非番のヘルパーが別の発電機を用意してくれてことなきを得た。

〈同行援護事業〉

（目的）視覚障がいや精神障がい等を有する利用者に対して、外出時に同行して移動に必要な援護や代筆などの介護サービスを行う。

（成果）現在、島田市 3 名、藤枝市 1 名、牧之原市 1 名、吉田町 1 名、計 6 名が利用されており、延べ利用回数は、420 回となっている。

利用者の希望に応じて、スポーツジムの利用やウォーキングなどの健康増進、病院受診、買い物や公的手続きに同行することで、利用者に満足していただけている。

〈行動援護事業〉

（目的）知的障がいや精神障がいにより、行動上著しい困難を有する利用者に対して、本人の危険を回避するために必要な支援や外出時の移動介護を行う。

（成果）今期は 2 名に利用していただき、月 1 ～ 2 回、延べ利用回数は 21 回となっている。内 1 名の方には 2 人体制で支援することにより、安全にサービスを提供することができた。

今後の課題

1. 人材育成について、本事業は専門性が求められるため、知識を確実に身につけられるように、各資格取得の講座や研修会への参加の機会を増やしていく必要があるが、人員配置に余裕がないため、十分な参加は困難な状況となっている。
2. 人材確保について、職員が安心して働き、安定した生活ができる収入と適切な雇用条件の保証が必要である。各市町の障害者計画においても、利用者からの障がい福祉サービスの要望が多いため、各市町には職員の確保に繋がる援助をお願いしていきたい。しかし、日々の人員不足による対応に追われ、各市町等への継続的な働きかけができていない。
3. 新型コロナ、インフルエンザ、その他の感染症の流行もあるので、引き続き手指衛生と不織布マスクの着用など感染対策を徹底したい。
4. 居宅介護のヘルパーは 1 対 1 対応が基本となるため、利用者との相性などを考慮すると、その利用者に専属ヘルパーになってしまうケースがある。継続した支援体制を構築するためには複数のヘルパーが支援に入れる方法を検討していく必要がある。
5. 非常災害時の対応については、発電機の動かし方や連絡方法など、再確認し職員全員で共有していく。

別紙 2

生活介護事業「おれんじ初倉 かりん」	
目的	
<p>障害者総合支援法に則り、利用者が自立した日常生活および社会生活を営むことができるよう、日常生活上必要な介護、創作余暇活動又は生産活動の機会の提供、その他の便宜を適切かつ効果的に行う。</p>	
実施概要	
<p><活動実績></p> <p>年間稼働日数 241 日 延べ利用者数 3,146 名</p> <p>実利用者数 18 名（定員 20 名）2025 年 9 月末日現在</p> <p>1 階：重症心身障害者対応 9 名</p> <p>2 階：知的障害者、精神障害者、身体障害者対応 9 名</p> <p><活動内容></p> <p>役務提供：企業からの下請（DVD 解体、アラミド分別作業）市内古紙・アルミ缶等資源回収</p> <p>作業提供：封筒スタンプ打ち、手動・電動シュレッダー、シール貼り、クッション材の制作等</p> <p>活 動 等：・ボランティアによる読み聞かせ（ぼれぼれ、1.2 の会、島田紙芝居クラブ、月 1 回）</p> <p>・体操（月 1 回）・避難訓練（年 2 回）・クッキング・買い物体験・外食体験</p> <p>・図書館、公園、近隣施設の利用・制作・散歩・初倉地区民生児童委員との交流会</p> <p>・お楽しみ会等（ハロウィン、運動会、クリスマス会、夏祭り）</p> <p>健 診 等：・嘱託医による健診（年 2 回）、看護師による健診（月 2 回）</p> <p>・歯のブラッシング指導・体組成計による健康チェック（島田市健康づくり課）</p> <p><実習等受け入れ></p> <p>吉田特別支援学校：高等部 3 年生 1 名</p> <p>藤枝特別支援学校：高等部 3 年生 1 名 高等部 2 年生 1 名</p>	

成果
<ol style="list-style-type: none"> 1. 今期は、1 階に 2 名の利用者が増え、週 5 日利用する 11 名と週 1 日～3 日利用する 7 名で、9 月末現在の契約者数は 18 名となっている。 2. 昨年 11 月に初倉公民館「くらら」の多目的ホールで、運動会を行った。司会や体操等利用者が主体となり進行することができ、手作りの楽しい運動会となった。 3. 2 名の利用者が就労継続支援事業 B 型事業所に移行することができた。 4. これまでスマートフォンの小さな画面で音楽を流していたが、2 階にテレビを購入したことにより、大きな画面で映像を流すことができ余暇活動の幅が広がった。 5. 「おれんじはつくら」の看護師と連携をとることで、新たに利用の始まった医療的ケアを必要とする利用者へ、より良い支援を継続することができている。 6. ご家族に了承を得て、喀痰吸引等研修（第 3 号）を積極的に行っている。 7. 1 階と 2 階で常に連携を図っている。ミーティングを職員の資質向上を目的とした内容の時間として有効に活用できている。 8. 初倉地区の民生児童委員の方に声を掛けていただき、何回か打合せを行い一緒に何ができるかを考えて、「くらら」で交流会を行い、かりんのことを知っていただくことができた。
今後の課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員の知識や経験の幅を広げられるような研修へ積極的に参加を勧め、支援の質をあげ、利用者に寄り添った支援を継続していきたい。職員が 1 階 2 階のどちらにも支援に入れるような体制を整えていきたい。 2. 肢体不自由の方や医療的ケアのある重症心身障害者の受け入れをしている 1 階は、島田市内在住の「おれんじはつくら」の卒業生の受け入れを、今後も想定していきたいが、職員数や部屋の広さ等を考えると積極的な受け入れは難しくなっている。看護師、運転手の増員も必要である。 3. 企業からの仕事の、DVD の解体やアラミドの分別が減少傾向にある為、古紙・アルミ缶等資源回収に力を入れていきたい。

別紙 3

就労継続支援B型事業「りんご」							
目的							
<p>障害者総合支援法に則り、利用者が自立した日常生活および社会生活を営むことができるよう、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練、その他の便宜を適切かつ効果的に行う。</p>							
実施概要							
<p><活動実績></p> <table> <tr> <td>年間稼働日数</td><td>254 日</td></tr> <tr> <td>延べ利用者数</td><td>1,911 人</td></tr> <tr> <td>実利用者数</td><td>9 名（定員 20 名）</td></tr> </table> <p><生産活動等></p> <p>自主製品製造： 焼菓子（クッキー、フィナンシェ、ブラウニー、シュトレン等） うえるびーの紅茶（リーフ、ティーバッグ、お試しサイズ） その他（ゼリー、プリン等）、無農薬野菜、アクリルたわし</p> <p>販 売 先： 島田市役所（毎週木曜）、おおり（第2第4金曜）、ひこばえ、芭蕉庵、 楓、オールしずおか（子ども食堂）、スーパーカネハチ、ジャパンバザール、 大河原運送、金谷環境、ル・ポティロン、伊太和里の湯、静岡県労働金庫、 労金関係団体（榛北地区労福協等）、チェルビック・プラス、駿河西病院、 ネット（BASE、Instagram）等</p> <p>販売イベント等： 金谷地区合同文化祭「絆フェスタmaru」、農福マルシェ、社会福祉大会、 きらりマルシェ、かなうえる1周年記念祭、てけてけ隊フェスティバル、 藤枝特支「ふじとくまつり」、吉田特支「もえぎまつり」等</p> <p>役 務 提 供： 企業からの下請（チラシ封入、DVD解体、商品袋入れ、シール貼等の内職）、 ひだまりカフェの配膳・清掃、施設外就労（レタス農家作業補助、社屋清掃）等</p> <p>行 事 等： オリーブ・さつまいも等収穫体験、防災訓練、にこにこしまだクリーン大作戦、 お楽しみ会（クリスマス会、初詣、外食体験等）</p> <p>健 診 等： 歯のブラッシング指導と体組成計による健康チェック（島田市健康づくり課）</p> <p><実習等受け入れ></p> <p>吉田特別支援学校： 高等部2年生 1名 高等部3年生 1名 体験 10名</p>		年間稼働日数	254 日	延べ利用者数	1,911 人	実利用者数	9 名（定員 20 名）
年間稼働日数	254 日						
延べ利用者数	1,911 人						
実利用者数	9 名（定員 20 名）						

成果

1. 利用者を増やすため、今期も見学や体験、実習等を積極的に受け入れた。3月から新たに1名の利用者を迎えることができた。
2. 施設外で行う農作業補助や近隣企業社屋の清掃は、定められた日に休むことなく参加することができた。下請けの仕事では、以前より難度の高い仕事も取り入れ、一人ひとりにあった治具を使いながら様々な作業に挑戦した。
3. 菓子製造では、利用者だけでできる作業を以前より増やすことができた。対面販売の場を新たに開拓し、お客様への挨拶、紅茶試飲の声掛け等、積極的にコミュニケーションをとるように引き続き取り組んでいる。
ネット販売では、定期便を利用してくださる方を獲得することができた。
4. 藤枝市の他事業所と共同で大量注文に対応できる体制を整える県の事業に参加している。
継続して取り組み、新たな仕事の獲得につなげたい。
5. 畑での作業、ウォーキング、お楽しみタイム、イベント参加など、気持ちをリラックスさせる時間を今期も継続的に設けた。積極的に外に出ることで、多くの方と触れ合うことができた。

今後の課題

1. 今期は1名に新規利用いただけたが、給付費から人件費を捻出しきれていない。来年4月から新規利用者1名を予定しており改善が見込めるが、更に利用者を増やすために、工賃の向上と活動内容の充実を図りたい。
2. 事業スタートから10年が経ち冷蔵庫など様々な機材が老朽化してきている。助成金や補助金の情報を収集し計画的な修理・買い替え等を行い、落ちついて作業できる環境を整えていきたい。
3. 利用者一人ひとりの特性に合ったより良い治具や作業方法を常に考え、提供していきたい。
4. 今後もイベント等に積極的に参加して、工賃の向上を目指すとともにうえるびーをアピールしていきたいが、少ない人数で土日祝日の販売活動に参加するため、職員の負担が大きいことが引き続きの課題である。

別紙 4

共同生活援助事業 「グループホーム陽だまり」															
目的															
<p>障害者総合支援法に則り入居者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において相談、入浴、排泄又は食事の介護、その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的とする。</p>															
実施概要															
<p>1. 年間稼働日数：365 日</p> <p>2. 延べ利用人数：3,777 名</p> <p>3. 入居者人数：11 名（男性 8 名、女性 3 名）（定員 13 名）</p> <p>4. 主な支援内容：食事、入浴、服薬、歯磨き、整容、健康管理など入居者の特性に応じた生活支援。</p> <p>5. 食 事 提 供</p> <p>平日：朝食、夕食</p> <p>休日：朝食、昼食、夕食</p> <p>6. 日 中 活 動 先</p> <p>生活介護事業所</p> <table> <tr> <td>「ワーク金谷」</td><td>1 名（2025.1～）</td></tr> <tr> <td>「かたくりの花」</td><td>2 名</td></tr> <tr> <td>「空と大地と」</td><td>1 名</td></tr> </table> <p>就労継続支援 B 型事業所</p> <table> <tr> <td>「希望の家」</td><td>4 名（2024.12～1 名減）</td></tr> <tr> <td>「きらり」</td><td>1 名</td></tr> <tr> <td>「からふる工房はつくら」</td><td>1 名</td></tr> <tr> <td>「うたしあ」</td><td>1 名</td></tr> </table> <p>7. 休日の外泊支援</p> <p>8. 休日の余暇支援</p> <p>9. 職員会議の定例開催</p>		「ワーク金谷」	1 名（2025.1～）	「かたくりの花」	2 名	「空と大地と」	1 名	「希望の家」	4 名（2024.12～1 名減）	「きらり」	1 名	「からふる工房はつくら」	1 名	「うたしあ」	1 名
「ワーク金谷」	1 名（2025.1～）														
「かたくりの花」	2 名														
「空と大地と」	1 名														
「希望の家」	4 名（2024.12～1 名減）														
「きらり」	1 名														
「からふる工房はつくら」	1 名														
「うたしあ」	1 名														

成果
<ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢、性別、特性等に応じた支援を行った。大きな事故もなく過ごしていただけた。 2. 活動量の多寡を考慮し、野菜の摂取、カロリーを摂り過ぎないような食事の調整を行ったことで、昨年に引き続き適正体重の改善が図られた入居者もいる。 個別に刻み食とし、咀嚼、嚥下に注意を払った支援により安全に食事をとることができた。 3. 男性 1 名 入居者・家族の意向を踏まえ、体験利用を経て 2025 年 1 月から日中活動先を就労継続支援 B 型事業所「希望の家」から生活介護事業所「ワーク金谷」に変更したことにより、日中活動先から帰った後も穏やかに生活することができている。 4. 日中事業所との連絡ノート、口頭等での情報交換により、双方連携した支援に繋げることができた。 5. 休日の外泊については、保護者への連絡を密にすることにより、入居者と家族の意向に沿って実施することができた。 6. 休日の余暇支援については、移動支援、その他病院付添を入居者と家族の意向を踏まえ実施した。 猛暑・雨天等の天候による中止、時間帯の変更・短縮を状況に合わせて適切に実施したため、混乱を防ぐことができた。 7. 支援記録、事業所・家族・職員間の連絡ノート等により、入居者の状況を共有したため、職員の資質、支援技術の向上に繋ぐことができた。
今後の課題
<p>うえるびーがグループホームの運営を始め 8 年 6 か月を経過し、入居者の加齢、家族形態の変化に伴い、運営初期とは異なった支援、施設環境の改善が求められている。</p> <p>(支援関係)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入居者の身体機能の変化に対応できる技術習得と安心・安全な支援の継続、健康管理。 2. 家族の高齢化等の家族形態の変化に伴い自宅生活が困難になりつつあり、外泊の中止、変更等が見込まれる。 3. 就労継続支援 B 型事業所での作業に困難性がある方の、日中活動事業所の変更。 <p>(運営関係)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 人員配置基準を超えた職員配置につき、事業経費における人件費率は高い。 5. 光熱水費、食材費などの高騰に伴う家賃値上げの検討 6. 北棟空き室（2 室）の入居者確保。障害支援区分 1 から 3 程度 <p>(人材関係)</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 6 月に職員が退職し、1 名不足、入居者の特性に応じた支援を行える職員の確保。 8. 職員の他事業所との兼務 <p>(施設関係)</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 入居者の加齢に伴う身体機能の変化に対応した浴室、トイレの手すり設置。備品の設置。 10. 当施設に係る設備修理・交換、高額な光熱水費 <p>(災害関係)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 水害、地震等の自然災害への備え 12. 新型コロナウイルス、インフルエンザ等の予防対策及び発生時の対応。

別紙 5-1

放課後等デイサービス				
目的・実施概要				
<p>放課後等デイサービス事業は、支援の必要な障がいのある子どもや発達に特性のある子どもに対して、学校が終わった後や長期休暇などに、家庭以外の場で個々の状況に応じた発達支援を提供する児童福祉法等関係法令に基づく障害福祉サービスである。</p> <p>原則として対象は、障がいのある小学生・中学生・高校生であり、子どもの成長支援、地域との連携、保護者支援などを実施し、専門的な職員を配置している。</p> <p>「おれんじ柳町」と「おれんじ坂口」は、知的・発達・情緒障害の子どもを対象とし、「おれんじはつくら」は重症心身障害児を対象としており、医療的ケア、機能訓練等必要に応じた支援を実施している。</p>				
2025 年 9 月 30 日現在				
	おれんじ柳町		おれんじ坂口	
	おれんじ柳町		おれんじ坂口	
1 日当たりの定員	10 名		10 名	
平均利用人数／日	8.29 名		9.84 名	
年間稼働日数 (内、土曜開所日数)	250 日 (9 日)		245 日 (6 日)	
利用延べ人数(実人数)	2,074 名(23 名)		2,363 名(25 名)	
契約児童生徒人数	23 名		17 名	
学年別内訳	小学校 1 年		4 名	
	小学校 2 年	5 名	2 名	2 名
	小学校 3 年	2 名		2 名
	小学校 4 年	1 名		1 名
	小学校 5 年	1 名		
	小学校 6 年		2 名	1 名
	中学校 1 年	4 名	1 名	1 名
	中学校 2 年	3 名	3 名	1 名
	中学校 3 年	2 名	1 名	
	高校 1 年	4 名	1 名	2 名
	高校 2 年		1 名	4 名
	高校 3 年	1 名	2 名	2 名
学校別内訳	第一小 (2 名) 第二小 (1 名) 第四小 (4 名) 第一中 (3 名) 藤枝特支 (12 名) 吉田特支 (1 名)		勝間田小 (1 名) 坂部小 (2 名) 川崎小 (2 名) 細江小 (1 名) 相良小 (1 名) 吉田特支 (10 名)	
				藤枝特支 (11 名) 吉田特支 (5 名)

別紙 5-2

おれんじ柳町	
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・セラピードッグ来所 ・ボランティアによる読み聞かせ ・図書館、公園等、近隣施設の利用 ・避難訓練（年２回）・お楽しみ会等（ハロウィン、クリスマス会、卒業生を送る会等） ・昼食・おやつ作り・工作、手芸・買い物体験・外食体験 ・お出かけ・工場見学 ・ボランティア（高校生１名、中学生３名）の受け入れ ・土曜開所（毎月１回、第３土曜日）ハロウィンお楽しみ会、磐田香りの博物館、調理、あらさわふる里公園、花沢の里 	
成果	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 藤枝・吉田特別支援学校、島田市内小中学校支援学級、計８校の児童生徒に利用していただいた。利用人数の少なかった学校の子どもを増加することができた。 2. 学校が異なる子ども同士が仲良くなり、お互いの苦手な面をサポートし合い、一人では難しいことをお友達と協力して成し遂げる姿や、上級生が下級生を気遣う姿が見られた。 3. 10月の土曜開所に併せ「ハロウィンお楽しみ会」として、利用者以外にも卒業生や保護者と交流することができた。 4. 利用いただく全ての支援学級で「うえるびー通信」の回覧をお願いすることができた。 5. 買い物体験では、地域のお店で買い物をする機会を増やすことができた。また、店の方とのやり取りを通し、支払いを済ませることができた。セルフレジや精算機の支払いにも慣れつつある。外食体験では、予算内で好きなものを選択するとともに、外食時のマナーを学ぶことができた。 6. 全員参加の活動以外に、子どもたちの得意を伸ばす活動も多数企画した。完成した作品は保護者にも喜ばれた。作品を完成する達成感を得るとともに、子どもたちの自信にもつながった。 7. 市内のボランティアの方（読み聞かせ２団体、セラピードッグ２匹）に、月１回の訪問継続をお願いできた。 8. 「おれんじ柳町」の卒業生を土曜開所に招き、交流することができた。継続して数名の卒業生が、職員とお友達に会いに来てくれている。 9. 保護者勉強会を継続させることができた。 	
今後の課題	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちの発達に沿った支援計画が作れるよう、引続き保護者との面談に力を入れていきたい。 2. 子どもたちの行動に注意深く目を向け、状況を職員間で共有し、良い行動に関しては保護者に積極的に報告し、子どもの成長を共に感じる機会とする。尚、不適切な行動に関しては、保護者の理解を得られるよう、慎重に伝えていきたい。 3. 送迎時の事故やスピード、マナー等には十分注意し、無事故を目指したい。 4. 地域の学校の文化祭や当法人以外の事業所との共同を進めていきたい。また、社会参加を通して地域での認知度を高め、新規利用者の確保にもつながりたい。 5. 保護者勉強会については、保護者の悩みや相談に沿ったテーマで開催できるよう検討したい。 6. 職員の募集をしているが、人材の確保が難しい。パート職員だけでなく、事務的な仕事も担ってもらえる正規職員の確保も急務である。少ない職員をどう配置していくかも、大きな課題である。 	

別紙 5-3

おれんじ坂口
活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ・課題・避難訓練・読み聞かせ・ギター演奏・図書交流館「いこっと」・児童館の利用 ・季節事のイベント（ハロウィン、クリスマス会、夏祭り、流しそうめん、節分、外食体験等） ・施設見学（新金谷駅・プラザロコ、藤枝 市昆虫館、エアパーク、明治なるほどファクトリー等） ・交流や運動の活動（読み聞かせボランティア、小堤山公園、児童館、空港、往還下公園等） ・昼食作り・買い物体験・保護者勉強会 ・土曜開所（第3土曜日）浜岡原子力館、静岡科学館るくる、西郷ファーム等 ・地域やその他関係者との交流の場（よってこカフェさかぐち）
成果
<ol style="list-style-type: none"> 1. 吉田特別支援学校及び牧之原市内の小学校支援級 5 校、計 6 校の児童生徒に利用していただき、4 月からは新一年生が 4 名ご利用となった。受け入れを近隣の学校に限定したことで、地域の子どもたちが利用しやすくなり、送迎範囲の縮小に伴い送迎時間が短縮され、その分職員が支援に力をいれることができた。 2. 玩具を増やしたことで室内遊びがより充実し、落ち着いて遊べる時間が長くなった。 また、玩具を事務所に保管し、貸し出しや片付けの際にやり取りを行うことで、子どもたちは片付けの仕方や貸し借りのルールを少しずつ身に付けることができています。 3. 施設見学や公園などの外出体験を積み重ねてきたことによって、初めての場所でも落ち着いて皆と一緒に過ごすことができるようになってきた。 4. 昼食作りでは、意欲的に取り組める子どもたちが増えてきて、職員と一緒にいることで初めてのことも挑戦することができてきた。 5. 買い物体験では自分でお昼ご飯やおやつを選択し、支払いをするという体験をすることができた。 6. 春季・夏季休暇時に、「就労継続支援 B 型事業りんご」へ「お仕事体験」を依頼し、3 名の利用者に参加していただいた。初めての方は今後の目標や課題が明確になり、2 回目の利用者は前回より成長がみられた。 7. 新しい形式で挑んだ「よってこカフェさかぐち」では約 60 名に参加していただいた。 今後も試行錯誤しながらイベントを開催していきたい。
今後の課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員の平均年齢が高いため、子どもの素早い動きへの対応が難しい場面も想定される。ケガ防止に十分配慮し、安全に見守り・支援を行いたい。 2. 利用者の能力向上につながる支援を目指し、共有ノートやミーティングで日々の情報共有を継続する。引き続き、ご家庭・学校・他事業所との連携を大切にしていく。 3. 地域やボランティア活動をしている方たちとの交流を通して、社会参加の機会を広げ、住み慣れた地域で暮らすことができるよう地域との信頼関係を一層深めていく。 4. 牧之原市内の事業所も定員がひっ迫する中で、利用希望者が増えている現状については、所管する市に対して受け入れ体制の整備を要望していく必要があると考える。

別紙 5-4

おれんじはつくら 児童発達支援「いちご」	
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練：年 2 回 ・誕生日会 ・嘱託医による健診：月 1 回訪問（うち年 4 回内科健診） ・おやつ作り ・創作活動 ・買い物体験 ・公園の利用、散歩 	
成果	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 他事業所と併用している利用者が多いため、毎月、各事業所及び相談支援事業所と共にモニタリングを実施し、情報の共有・支援の一元化を図ることができている。 2. 医療従事者からの指導や保護者からの情報提供により、一人ひとりの子どもに合わせた負担の無い介助を行うことができている。 3. かりんの看護師とも連携が取れており、安心安全な支援の継続ができている。。 4. 人工呼吸器を使用している利用者については、長期休暇中、保護者同行のもと受け入れを継続することができた。 5. 十分な職員体制が確保できていない中ではあるが、常に声を掛け合い子どもたちだけでなく職員同士にも思いやりをもって仕事ができている。 6. 感染症に関しては、職員・利用者ともに罹患したものの、感染が拡大することはなく、重症化することもなかった。 7. 児童発達支援「いちご」は契約者 0 名となっている。 	
今後の課題	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障がい児には、医療的ケアの有無、病状、身体状況等については様々なので、活動内容や支援方法等、学校や保護者との連携を密にし、個別の対応を充実させていきたい。 2. 過度な先回りをせず、現在子どもたちができていることを継続し更に増やしていきたい。 3. それぞれの子どものできること、興味のあることを一緒に探し、楽しめる時間を増やしていきたい。 4. 感染症対策を引き続き行うとともに、子どもたちが安全に通所できる場を提供していきたい。 5. 前期と同様、職員が人工呼吸器についても勉強を進め、今後、保護者の同伴なしで 1 人でも安心して利用ができるような体制を取っていきたい。 6. 職員の退職等があり、利用人数を制限せざるを得なかった。予定よりも利用人数が減少し経営的に厳しいものとなった。今後も継続して働いてくれる職員の確保が課題である。 	

別紙 6

ノーマライゼーション社会の実現事業 「ひだまりカフェ」			
目的			
1. ひだまりカフェは法人の理念である「障がいがある人もない人もそれぞれが自分らしい生き方ができる地域社会をともにつくる」を具体化するために、みんなの居場所として運営していく。			
2. 「グループホーム陽だまり」の入居者及び「就労継続支援 B 型事業りんご」の利用者・職員に安全で健康的な食事の提供を行う。			
実施概要			
1. 年間稼働日数 365 日			
2. 延べ利用人数等			
ひだまりカフェ来店者		1,636 名	保護者等：ぴよんたの会、スマイルの会、リアンの会、支援級の会、手をつなぐ育成会 生活介護：空と大地と、かたくりの花 放課後等デイサービス：ひまわり島田駅前、金谷 その他：民生児童委員第一地区の皆さん 障がい児者関係のサークル等の皆さんが会議や食事会でカフェを利用してくださった。
島田市役所でのお弁当販売 46 回		約 1200 名	
CC キッチンワークショップ 11 回		43 名	
ひだまりサロン和室利用 24 回		168 名	
お琴サークル和室利用 34 回		約 400 名	
こども食堂開催 22 回		約 880 名	
一人親支援 12 回		約 720 名	
3. 活動			
① ひだまりカフェ			
・地域の方や障がい者、子どもたち等、多くの方が食事に来訪してくれた。毎週木曜日に島田市役所でお弁当販売を継続しているが、米不足と夏の食中毒を懸念し 8 月と 9 月の 2 週間は休みとした。			
② CC キッチン（＝子どもと障がい者のワークショップ）			
・ワークショップを毎月 1 回開催した。			
・2024 年 7 月から 2025 年 1 月まで認定 NPO 法人むすびえからの助成金を得て、ひとり親家庭等へ物資配布を行った。現在も継続中。			
・各団体の活動やカフェの様子、お弁当販売の内容等をInstagramにて配信した。			
・宿題塾「ひだまり教室」や学習支援「しまだっ子」へのおやつやランチの提供等を行った。			
・こども食堂の運営			
③ 「グループホーム陽だまり」入居者への食事提供			
④ 「就労継続支援 B 型事業りんご」の利用者・職員への昼食提供			

成果
<p>① ひだまりカフェでは「就労継続支援 B 型事業りんご」の利用者がウェイトレス、ウェイターとなってカフェのホールを担当してもらっている。礼儀正しく接客できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所でのお弁当販売は週 1 回 20 食から 30 食を持参し、概ね完売する。 <p>② CC キッチンの子ども食堂は、活動が周知され、寄付金や食材等の寄付が増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードバンクふじのくに、カーブス島田、ベーカリーラボ、グリフィスフーズ株式会社静岡工場、認定 NPO 法人むすびえ、ミニストップ金谷店、マルハン、ブレイクブレッド、島田市社会福祉協議会、パロー等から食品や寄付をいただいた。 ・株式会社丸紅より 10 万円、金谷地区退職者福祉共済会より 7 万円の寄付金をいただいた。島田市へのふるさと納税の一部をこども食堂に分配していただいた。 ・認定 NPO 法人むすびえを通してこども家庭庁からの「ひとり親等支援助成金」を約 285 万円いただいた。(2024 年 7 月から 2025 年 1 月まで事業継続) ・2025 年 7 月から 2025 年 9 月も引き続き「ひとり親等支援助成金」を活用した。その他の月はこども食堂への寄付金を活用しひとり親等支援を実施できた。 ・CC キッチンのワークショップは、子どもと障がい者と保護者が楽しくもの作り体験をした。 ・恒例のクリスマス会はミニストップ金谷店、フードバンクふじのくに、労働金庫、ポケモン応援団よりご支援いただいた。約 130 名の子どもと障がい者が来てくれた。 ・こども食堂として、カレー無料デイを月 2 回開催した。こどもは無料、大人は 200 円 (現在 300 円) <p>③ 「グループホーム陽だまり」入居者への食事提供は、各人の好みを把握し献立を考え、少しでも摂取してもらえるよう工夫した。咀嚼・嚥下機能の低下、身長、体重、年齢、性別、運動量等を勘案し食事量や食形態、硬さなどを調整し提供できた。</p> <p>④ 「就労継続支援 B 型事業りんご」への食事提供は、安くてボリュームのあるものを提供した。</p> <p>⑤ 五和小学校 2 年生の「地域のまち探訪」でインタビュー協力をした。店の意義やどんな人が利用しているか、なぜこども食堂を開催しているのか等の質問を受けた。当日、お琴サークルの練習日だったことで「お琴のふれあい」「高齢者のふれあい」の機会となった。</p>
今後の課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. ひだまりカフェの運営はなかなか厳しい。食材の価格が高騰し、採算改善の見通しは遠い。そのような中でも多くの方々に利用してもらえるよう、インスタグラムで発信しているが反響は一部にとどまっている。 2. CC キッチンのワークショップは障がい児者と子どもたちの交流が大きな柱となっている。より多くの障がい児者の参加を促すには、専門の支援員を配置することができる予算確保が必要である。 3. ひだまりカフェを開設した当初から赤字改善に至っていない。

別紙 7

地域生活支援事業「移動支援事業」

目的

障害のある方が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じ、外出時における移動の支援を行う。単独での外出が困難な障がい者の社会生活上必要な外出、余暇活動などの社会参加のための外出を支援する。

实施概要

延べ利用者数 1,713 名

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
島田市	86	87	82	83	85	95	84	84	92	86	87	75	1,026
藤枝市	16	17	15	10	17	16	18	17	15	15	16	14	186
牧之原市	26	25	22	17	19	24	28	23	17	36	33	26	296
焼津市	6	7	7	5	5	7	5	8	6	6	4	6	72
吉田町	9	5	5	6	5	6	10	5	8	9	6	6	80
川根本町	4	4	4	4	4	4	6	4	4	5	5	5	53
合 計	147	145	135	125	135	152	151	140	142	157	151	132	1,713

主なサービス内容

自宅周辺散歩、グループホーム周辺散歩、静岡駅周辺散策、アピタ内散策、
グランシップアート展、静岡市立美術館、藤枝郷土博物館、さわやかウォーキング島田参加、
浜名湖オルゴールミュージアム見学、藤枝陶芸センターで作陶体験、BIVI での映画鑑賞、
飲食店でのランチ、スーパーマーケットでの買い物など

成果

公共交通機関を利用し、目的の場所へ行き、自分の希望した活動をすることで社会参加に繋がった。さらに、移動支援を定期的に利用して外出することで、体力の維持ができています。また、日常生活を楽しむこともでき、利用者の心の安定や励みに繋がっている。

今後の課題

1. 各市町からの委託事業である移動支援は、1 時間当たりの給付費から、ヘルパーの賃金と集合場所への交通費等を賄うことはとても厳しい現状である。このため給付費の増額、或いは助成を求めていると考えている。
2. 利用希望者は増えているが、登録ヘルパーの高齢化、人員不足は続いているため十分な対応が困難な状況である。また、志太榛原地域での移動支援事業所が毎年減少しているため、利用者の選択肢が狭まり利用が制限されている。それに伴い当事業所の負担も増加している。
3. マンツーマンでの支援になることが多いので、緊急時の対応や応援体制を整えていく。

別紙 8

当法人の目的を達成するために必要な事業

【うえるびー研修報告】

年	月	日	内 容	参加 人数	担当部署
2024	11	13	救命救急法	41	おれんじ坂口
2025	2	19	虐待防止研修（アンガーマネジメント）	19	虐待防止委員会
	3	12	虐待防止研修（アンガーマネジメント）	28	虐待防止委員会
	5	14	感染症、熱中症対策研修	39	居宅
	7	9	アサーティブトレーニング	39	おれんじ柳町
	9	20	交通安全研修	42	りんご・陽だまり

【外部研修報告】

年	月	日	内 容	参加 人数	主催者
2024	10	10	令和 6 年度 サービス管理責任者等 基礎研修	4	静岡県障害者政策課
		25	令和 6 年度 農業技術向上実習⑤⑥	6	※オールしずおか
	11	11	2024 サビ管ミーティング（施設外就労の取り組み）	1	志太榛原自立支援協議会
	12	3	令和 6 年度 サービス管理責任者等 更新研修	1	静岡県障害者政策課
		8	在宅重症心身障害者対応多職種連携研修(志太榛原地区)	2	志太心身障害児者専門部会
2025	1	24	子どもの権利擁護研修「こどもをみつめるまなざし」	11	牧之原市自立支援こども部会
		25	自閉症協会研修部研修会（自閉症の特性・学習スタイル）	2	静岡県自閉症協会
		31	令和 6 年度静岡県障害者虐待・権利擁護研修	1	静岡県障害者政策課
	2	19	令和 6 年度農業技術向上講習⑦	3	※オールしずおか
		27	島田市地域生活支援理解促進研修	1	島田市
	4	18	たん吸引三号研修(実地研修)	1	NPO 法人ひまわり事業団
	5	26	たん吸引三号研修(実地研修)	2	NPO 法人ひまわり事業団
	6	2	たん吸引三号研修(実地研修)	1	NPO 法人ひまわり事業団
		27	令和 7 年度農業技術向上講習①	2	※オールしずおか
	7	14	2025 サビ管ミーティング（就労選択支援事業）	1	志太榛原自立支援就労部会
	8	8	令和 7 年度 事業所の生産性向上支援研修	1	※オールしずおか
		8	同行援護従業者養成研修応用課程	1	静岡県補助犬支援センター
	9	10	強度行動障害支援者養成研修	1	しかくの学校ホットライン
		11	令和 7 年度 食品衛生講習会	1	静岡県中部保健所
		22	令和 7 年しだはいジョブミーティング 1 st 「意思決定支援と就労」	1	志太榛原自立支援就労部会

* オールしずおかは、「オールしずおかベストコミュニティ」の略

第 21 期 委員会開催状況

『虐待防止・身体拘束適正化委員会』（2022 年 4 月より正式に活動開始）

- ◎ 2024 年 10 月 23 日（水） 2024 年度第 2 回委員会 6 名出席

内容：各事業所での取り組みの報告、職員アンケート結果報告

全職員対象の研修計画について

グループワーク

身体拘束適正化に関するプリント

- ◎ 2025 年 2 月 12 日（水）午前および 3 月 12 日（水）午後

虐待防止・身体拘束適正化研修会（全職員対象研修） 53 名参加

テーマ『アンガーマネジメント入門講座』

講師：社会福祉士事務所ひまわり 増田京子

- ◎ 2025 年 5 月 23 日（水） 2025 年度第 1 回委員会 8 名出席

内容：自己紹介・規程等の再確認、各事業所での取り組みの報告

グループワーク

「令和 6 年度静岡県障害者虐待防止・権利擁護研修」資料を使用

なお、2025 年度第 2 回委員会は、2025 年 10 月 21 日（火）に開催予定

- ◎ 2025 年 7 月下旬の 2 種類の職員アンケートを実施（回収 48 件）

①職員セルフチェックリスト

②職業性ストレス簡易調査

第 21 期 理事会・総会開催状況

- ◎ 理事会（毎月定例開催、定款に定める事項を議決する、事業の状況報告等） 13 回開催

2024 年 10 月 25 日（金）、11 月 8 日（金）、11 月 29 日（金）、12 月 27 日（金）

2025 年 1 月 23 日（木）、2 月 25 日（火）、3 月 28 日（金）、4 月 24 日（木）

5 月 27 日（火）、6 月 24 日（火）、7 月 18 日（金）、8 月 29 日（金）

9 月 30 日（火）

- ◎ 通常総会（議決権を持つ正会員の出席により、定款に定める事項を議決する）

2024 年 11 月 23 日（土） 通常総会 場所：島田市金谷北地域交流センター 多目的ホール

出席 31 名（正会員 21 名、一般会員〔報告者等〕8 名、来賓 2 名） 書面による表決 5 名

第 1 号議案 事業報告 第 2 号議案 活動決算・監査報告 第 3 号議案 役員の選任について

第 4 号議案 役員報酬について 第 5 号議案 第 21 期事業計画 第 6 号議案 第 21 期活動予算

第 7 号議案 会費の額について 第 8 号議案 借入金について

（理事会にて承認後、総会議案として議決）